

農と暮らしの新たな視点を探る

産直コペル

sanchoku coper

2019.1 Vol.33

特集①

薪ストーブの ある暮らし

データで見る!森林資源の使われ方
知っておきたい薪のこと ほか

林家を訪ねて

理想を胸に山づくりに
懸けた60年

農の点景
のうの
てんけい

ひとつながりの命
―草間舎の田畑から―

特集②

in和歌山

全国農林水産物直売サミット

～地域を支え、地域経済も動かす直売所～

栗を栽培する菓子メーカー

—— 東京農工大学 野見山敏雄 ——

10月中旬、地産地消優良活動表彰の現地調査で岐阜県恵那市を訪れた。恵那市は岐阜県南東部に位置し、愛知県と長野県に隣接した地域だ。2004年10月、旧恵那市と恵那郡の5つの町村（岩村町・山岡町・明智・串原村・上矢作町）が合併し、新しい恵那市が誕生した。恵那市の人口は5万1007人（2015年国勢調査）である。

（株）恵那川上屋（以下、恵那川上屋）は、創業1964年で東美濃地域にある栗菓子店の中では比較的新しい会社である。従業員数は約310人で、蒸した栗と少量の砂糖をまぜて潰し、布巾で1つ1つ絞って丁寧に作られる栗きんとんは、秋のみ作られる伝統の和菓子である。筆者がこれまで食べていた「栗きんとん」とは全く別物であつ

た。収穫した栗の鮮度は急速に低下するため、収穫後24時間以内に加工し、CAS冷凍により周年使用できるようにしている。

一方で、地元産の栗は品質が揃わず、地元菓子店から見向きもされず、卸売市場に出荷するしかなかった。その結果、低単価と高齢化により栗園の耕作放棄が進むことに社長の鎌田真悟氏は危機感を抱いていた。

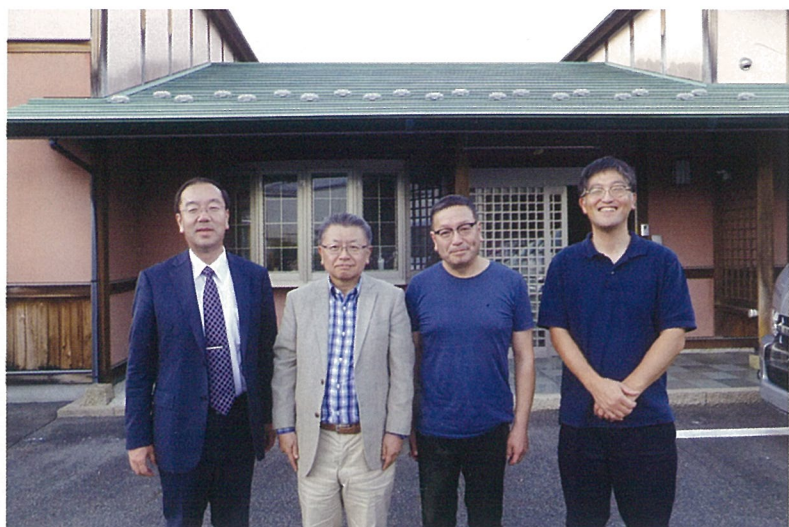
1994年旧恵那郡坂下町（中津川市）の農家12戸と契約し、10トンの栗を買い上げた。同時に、低樹高栽培や品種、選果方法などを

を細かく定めた規約を作り、この基準に合った栗は「超特選恵那栗」として市場価格の2倍で全量を買い取るようにした。2001年には旧恵那市、旧恵那郡中津川市の67戸の農家も参画するようになり、買い上げ数量は100トンを超えた。

以上のような活動の成果が評価され、恵那川上屋は平成30年度地産地消等優良活動表彰・食品産業部門で農林水産大臣賞を受賞し、恵那南高校は教育関係部門で農林水産省食料産業局長賞を受賞した。



栗園を説明する(有)恵那栗の大竹正人氏(中央)



筆者と鎌田真悟社長(中央右)

しかし、生産者の高齢化はさらに進んだため、鎌田氏は同社の農業部門として（有）恵那栗を設立した。耕作放棄され



野見山敏雄さん

東京農工大学大学院農学研究院教授

東京農工大学で教鞭をとっており、最近の研究テーマは、半商品経済を組み込んだ農林産物の生産と流通に関する総合的研究である。主な著書には、産直商品の使用価値と流通機構（日本経済評論社）や食料・農業市場研究の到達点と展望（筑波書房、共著）など多数。2012年より地産地消優良活動表彰審査委員会・委員、17年から委員長を務めている。

以上のような活動の成果が評価され、恵那川上屋は平成30年度地産地消等優良活動表彰・食品産業部門で農林水産大臣賞を受賞し、恵那南高校は教育関係部門で農林水産省食料産業局長賞を受賞した。